

わかった！できた！



令和元年10月17日 No.5

○「学力フォローアップ校事業」第4回校内研修がありました。

令和元年9月26日（木）に第4回目の校内研修がありました。

今回は、2年1組で国語科「ビーバーの大工事」の授業を通して、児童が「わかった・できた」を実感できる授業づくりについて、研究協議を行いました。本校では初めての国語科の授業研究でした。研修で得た成果や課題をこれからの取組に生かしていきたいと思います。

研究協議（○成果 ▼課題）

よかった点

○ビーバーのことを読み取らせるときの視点として、ビーバーの「すごいぞ」を見つけさせるようにしたところがよかった。また、「すごいぞ」といえるところがどこなのかを明確にしていたところもよかった。

○動作化でビーバーのことをイメージすることができた。支援の必要な児童にはよい手立てとなった。

○図工・生活科と関連を図り、教科横断的な学習となっていた。

○写真で、ビーバーの歯やオールの長さをイメージさせるなど、具体物による理解も促進されていた。

○グループの話し合いや聞き方が形式化されていてよかった。

○ビーバーに関わる環境づくりがされており、どっぷりと教材に浸らせることができていた。

○掲示物などにより、ゴールの設定が明確になり、学習の意欲づけにつながっていた。

○自分の意見を発表する際、理由も言えることが素晴らしかった。

○色彩・文字の大きさなど視覚支援が意識されており、子どもがわくわくするような掲示物になっていた。

○子供同士のつながり発言があった。 ○学習のテンポがよかった。

改善点

▼どこを書きぬけばいいかわからない児童については、教科書に赤で鍵かっこ◎「 」を書き込むなどの工夫があればよかった。

▼マス目のあるワークシートを使用し、教科書の文章を書きぬきやすくする。

▼読み取りを丁寧にしすぎると時間が足りなくなるので、順序についてはあまり触れなかったが、「すごいぞ」を出させた後で、本文の順序に戻るとより理解が深まった。

▼グループ協議の仕方に習熟が必要である。（話型を活用するなど）

▼机間指導で、配慮のいる児童に声をかける必要がある。

▼動作化をオーバーにすると理解が深まったのかもしれない。

▼繰り返し発問ができるようになると、ねらいに迫る反応を引き出すことができる。

指導助言

(広島県教育委員会義務教育指導課 玉木 昌知 指導主事)

つまずきの要因分析→単元に応じて整理

・つまずきの要因分析は、算数だけの側面ではなく様々な面から多面的にできている。今後は、授業や単元に応じて整理していく必要がある。

「すごい！を見つけよう！」がすごい！

- ・「ビーバーのひみつ」が「すごいぞ」になっている。「すごいぞ」を「びっくり・なるほどなど」を分かりやすい表現で表しているところはよかったが、更にこの手立てでわからない児童に対する支援まで考えてほしかった。
- ・「すごいぞ」が単元を貫く課題になっているところがよかった。
- ・「すごいぞ」を見つける活動を設定したことで、しんどい児童に対する手立てになっていた。
- ・最終目標を明確に持って、何をさせなければいけないかをしっかり考えていかなければならない。
- ・しゃべるテンポがよかった。また、一つ一つの指示が明確でよかった。
- ・「すごいぞ」を見つける際に、「2つに絞ります。」「友達に教えるので、説明ができるように。」と、見通しを持たせる指示を出していたのがよかった。今回のように、「友達に教えるので」とできるだけ理由を添えて子供たちへ声掛けしてほしい。

児童への声かけが素晴らしい！

- ・児童への声のかけ方がよかった。「返事の良い〇〇君」「今日頑張った〇〇君」など、こういう声掛けができることがすごい。細かい言葉かけが大事だと思った。課題のある児童ができるようになってきたのは、先生方の声掛けや放課後学習の取組が大きいのではないかな。

学習環境が素晴らしい！

- ・授業では動作化・映像・びーちゃん（ビーバーの作り物）・歯・木・具体物たくさん用意してあった。ダムを造るビーバーを私たちは見たことがない。子どもには準備物が大事。1・2年生は言葉の力が弱い。ものを使って説明することで言葉で足りないものを補っていく必要がある。

子どもたちの気持ちになって指導

- ・先生は「自分もビーバーがすごいと思ったから、それを伝えたい。」と言われた。先生自身の気持ち・スタンスは伝わる。そのことが指導の良さに表れていた。
- ・先生は国語が苦手だと言われた。苦手だからこそ、分からない子どもの気持ちがわかる。それを強みに授業をつくってほしい。

事前研修は大事！

- ・授業前に他の先生方が何度も集まってされている事前研修がいいなと思った。より多くの先生方で話し合ってほしい。

話し合い活動について

- ・グループ協議が十分できなかったのは、話し合いルールがはっきりしていなかったからだと思う。話型があるとよいが、段階的に話型がなくてもできるようにしてほしい。中学年では？高学年では？学校の中で話し合いの仕方を系統的に指導してほしい。

今後に向けて…

- ・本日の研修で学んだことをアレンジして取り組んでほしい。低学年での実践を踏まえて高学年の姿をイメージして取組にチャレンジしてほしい。

October 17, 2019

(廿日市市教育委員会 福島 千恵子 指導主事)

- 個の実態，要因分析がよくできている。指導案にも指導事項と実態に分けて要因分析ができているのがとてもよい。手立てが具体的に浮かんでくるようになってきている。
- 巣作りの工程をもう少し丁寧にやってもよかったのでは。「事柄の順序」「文章表現上の順序」内容の大体を理解することは，今日の大事な指導事項だったのではないか。今日の子供たちは「最初に」「次に」としっかり言っていた。

図工科で作成した作品(すをつくるビーバー)

